

R7-8イタリアンライグラス播種量比較展示まとめ

目的

現在、宮崎牧場ではイタリアンライグラスの播種量を2倍体品種は2.5kg/10a、4倍体品種は3kg/10aで播種している。
2倍体の早生品種ニオウダチ及び4倍体の晩生品種ヒタチヒカリについて播種量の異なる試験区を3水準設け、生育、収量等を比較し、今後の播種量の参考とする。

栽培経過

2025年10月15日播種（散播、2kg/10a播き区、3kg/10a播き区、4kg/10a播き区各3反復）、10月20日発芽を確認、
2026年1月9日草丈調査（1回目）、2月12日草丈調査（2回目）、
3月9日草丈調査（3回目）
4月8日ニオウダチを刈り。5月17日ヒタチヒカリを刈り。

結果

ニオウダチは出穂期に、ヒタチヒカリは開花期に刈り調査を行った。
刈り時の草丈は、ニオウダチの2kg/10a播き区で他と比べやや低かったが、品種毎に他の試験区間で差は小さかった。
乾物収量は、ニオウダチ、ヒタチヒカリとも3kg/10a播き区で多く、2kg/10a播き区、4kg/10a播き区で少なかった。

考察

- 乾物収量はニオウダチ、ヒタチヒカリとも3kg/10a播き区で最も多く、2kg/10a播き区、4kg/10a播き区で少なかった。散播で播種する際は、3kg/10a播きで播種することで多収となることが示唆された。
- 宮崎牧場では4倍体の晩生品種を11月下旬以降に播種しているが、10月中旬に播種を行っても早生品種より遅れて収穫適期を迎えることが示唆された。

刈り時の写真（ニオウダチ）

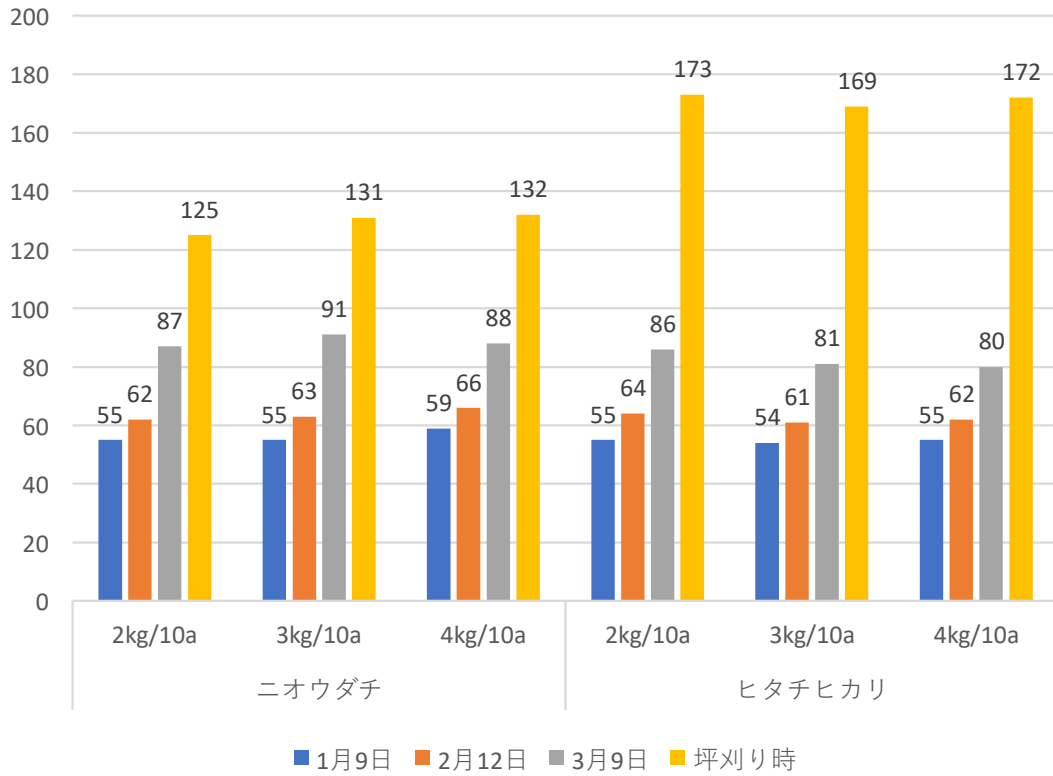


左：ボーダー、右：2kg/10a播き区



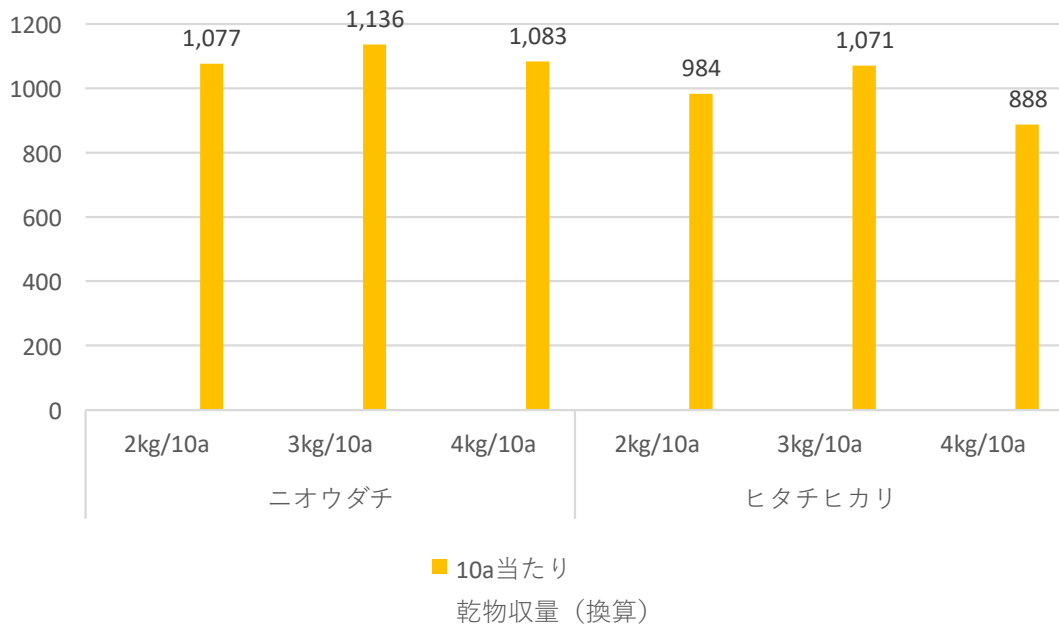
左：3kg/10a播き区、右4kg/10a播き区

草丈 (cm)



乾物収量 (換算、kg/10a)

イタリアンライグラス播種量調査 (乾物収量)



(単位:kg/10a)

2 kg/10a播き

3 kg/10a播き

4 kg/10a播き

ニオウダチ	1,077	1,136	1,083
ヒタチヒカリ	984	1,071	888

※播種時期や播き方によって結果が異なる場合があります。